

畜産試験だより

和牛農試験場

暑い暑いといわれた今年の夏も、早や8月も半ばをすぎると、ここ千屋の山中では、虫の声に、風の音にそぞろ秋の気配さえ感じる昨今となりました。

この涼しい夏を慕って、というのでもないでしょうが、毎日のように多くは貸切りバスで、或いは三々五々と県内外から参観者がつめかけ、最近研修生、実習生等の来訪がしきりとあり、なかなか力が入ります。

現在75頭の和牛と十数等の豚をかかえている上に、日々彼等のための講義や実習指導に追っかけられ、閑居はおろか夏季特別休暇すら全く取ることのできない現状です。

★研修、指導

例年のように県下の農業高校夏期実習生（27名2班各1週間）の外に、農業改良課の主催により、現在農村青年建設隊5名が和牛研修を行なっております。また8月29日からは農山漁村青年建設隊約36名が和牛経営、飼養、肥育等について研修に来場する予定です。

宿場施設のない当場のこととて、講堂が、昼間は講義、夜はそのまま宿泊所となり板場にゴザ一枚を広げ、うすいセンベイ布団と毛布にくるまって一夜の夢を結んでいるという状態ですが、彼等は結構愉快に過ごしているようです。一時も早く短期講習生宿舎が欲しいと思っています。

★設備拡充

過去3カ年間の整備拡充工事により、追々施設が改善されつつありますが、まだまだ前近代的な施設をも多く残しています。ある県の種畜場長の端的な表現をかりれば「日本一の試験場から、一躍7、8番目位に昇格した。」というところでしょうか。

畜産工業とさえいわれる鶏、豚の畜産企業化にひきつづき、多頭飼育の問題は、和牛にももちろん例外ではありません。そこで、当场では、一部の牛舎をスタンション式に改造し、ウォーターカップをとり入れ飼養管理労力を節減し、多頭飼育による肥育

経済の改善合理化に役立てようと、現在古い牛舎の改築を急いでいます。

現在の和牛飼育は、さきに畜産課がこうしたの生産費調査を発表したように、飼育に要する労力は案外大きな部分を占めているので、この牛舎の改築のあかつきには、省力管理による労働力の問題解決について、経営試験を行なう予定にしています。

さて、夏中ソレ乾草だ、ヤレ、サイロの詰込みみだと過ごした後は、秋冬作の作付が待ちかまえています。もう1ヵ月も経てば、圃場はこれらの飼料作物で青々と息吹くことでしょう。

最後に目下実施中の試験研究は、いきおい肥育試験が中心となっていますが、それらを列挙してみますとつぎのようです。

1、自給飼料を主としての肥育試験

(1) 若牛（去勢牛）肥育

肥育生産費を引き下げるねらいで、生後14～18ヵ月の若令去勢牛10頭をつかい、半分の5頭の方は第1期2/3、第2期1/2、第3期1/3の濃厚飼料を節約して、150日間の中期肥育をします。後半分の5頭の方は、普通の飼い方をおこないます。

(2) 雌普通肥育

前の試験と同じような目的と方法で3才の雌牛6頭をつかって行なっております。

(3) 老廃肥育試験

3ヵ月間位の肥育が一般的に行われていますが、その最も経済的な肥育期間を調べるねらいで、年令7才と11才の老廃牛3頭ずつをつかって3ヵ月、4ヵ月、5ヵ月のそれぞれの肥育を同じような飼養条件で行なっています。

(4) 種雄牛別産肉能力検定試験

種雄牛の産肉能力を系統的に調べるねらいで、2頭のタネウシの子を6頭ずつ（去勢して）同じような飼料条件で8ヵ月間育成し、その後体重が450kg（120貫）になるまで肥育して、肥育期間、肉質、肉量などを調べて、タネウシの改良に役立てようとしています。